

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-76

学校名・団体名	精華町立東光小学校
HPアドレス	http://www1.kyoto-be.ne.jp/higasihikari-es/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	東光小バージョン・認知症キッズサポーター養成講座
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>校区は、東畑地域と光台地域で住民は約8700人である。東畑地域の高齢化率は35%、光台地域は17%で、光台地域では毎年高齢者(65才以上)が100人以上増える。光台地域の多くが他の市町や海外からの転居者で人の繋がりが弱い。「認知症キッズサポーター養成講座」を通して、高齢者との関わりをつくったり、心の教育として捉えること等を含み、コンセプトを「やさしい人づくり・やさしい町づくり」とし、福祉団体等と連携して取り組んでいる。サポーターはお年寄りにだけ優しくなるのではなく、みんなに優しくなる。</p>	

1 はじめに

「東光小バージョン・認知症キッズサポーター養成講座」は、大人向け講座を児童向けに改善した上、本校の地域性を考慮したり、関係諸団体と連絡調整しつつ創造している。本講座は、平成23年度に検討を始めて平成24年度より実施しているが、平成24年度は4年、平成25年度は4・5年、平成26年度は4～6年が受講している。4年生からの積み重ね学習であり、3年間のプログラムが完成したのは昨年度である。

2 平成27年度活動内容紹介

4年生…「認知症キッズサポーター養成講座」を受講して、サポーターの証であるオレンジリングを授かる。

5年生…サポーターとしての模擬体験

ア、冬の寒い日に薄着・サンダル履きの(認知症)高齢者に出会った場合

イ、スーパーのレジで、お金を支払うことのできない高齢者に出会った場合

ウ、家への帰り道が分からなくなった高齢者に出会った場合 等

6年生…高齢者総合福祉施設「神の園」でのキッズサポーター体験

・事前学習 ・キッズサポーター体験 ・フォロー学習

※キッズサポーター体験…高齢者総合福祉施設「神の園」へ行き、施設長や介護士等の説明を受けた後に、高齢者の居住区に入り、事前学習で用意した作文を読んだり、グループによっては得意の歌を披露したり、クイズ・紙芝居等をしたりする。約2時間の交流を行うが、時に、児童は同じ事を何度も言われたり聞かれたり、無視されたり、持っていった折鶴を放されたり等する。

※フォロー学習…大半の児童は、認知症の御高齢者と関わることが初めてであり、いろいろな思いを持ったり、場合によってはショックを受ける児童もいる。担任や「神の園」の職員が児童の本音を引き出して、児童の疑問や気持ちを受け止めながら学習を深めていく。

ウィンドアンサンブルクラブ…デイサービス(社会福祉協議会等の施設)への慰問演奏や「ありがとうコンサート」等

精華フレンドシップネットワーク(東光小学校・精華キャラバンメイト連絡会等・高齢者福祉施設「神の園」が中心になり、諸団体が「やさしい人づくり・やさしい町づくり」のために結成した任意団体)

①近隣の小学校・中学校・高校・一般の吹奏楽団体が「私たちは“やさしい人づくり・やさしい町づくり”を応援します。」をキャッチフレーズに人を集め、各種福祉団体が福祉の啓発活動を実施するイベントである。音楽で人びとの心を優しくしての福祉活動でもある。(平成27年3月実施時は約1000名、平成28年3月実施は1500人予想)

②近隣の小・中学校等に「認知症(キッズ)サポーター養成講座」を広める活動 等

3 成果

児童の知識理解としての「認知症理解」は、精華町キャラバンメイト連絡会や高齢者総合福祉施設・社会福祉協議会・保健所・民生児童委員等の努力により深まっている。児童が認知症のお年寄りを御自宅までお送りしたとか、公園で高齢者の方に優しく話しかけた等の話はよく聞くようになった。「やさしい人づくり・やさしい町づくり」は町を(キッズ)サポーターでいっぱいにして、やさしい町をつくっていき、子どもも大人も高齢者も安心して歩ける町づくりを目指している。このような意味で町内5小学校すべてが平成26年度から「認知症キッズサポーター養成講座」を開講するようになったことは大きな成果である。更に平成27年度には2中学校でも「認知症サポーター養成講座」が開講した。

4 課題

①小学校の「認知症キッズサポーター養成講座」と中学校の講座との接続を検討する。

②御高齢者との交流については、特に冬場はインフルエンザ・ノロウイルス・ロタウイルス等の対応に重々配慮していかなければならない。

③諸経費を確保していかなければならない。

5 おわりに

「やさしい人づくり・やさしい町づくり」は学校が求めるひとつの「子どもたちが安心して歩ける町・遊べる町」と、精華町キャラバンメイト連絡会が求めるひとつの「認知症の高齢者の方が安心して徘徊できる町づくり」が合致して出来たものである。「やさしい人づくり・やさしい町づくり」の成果は5年後・10年後…のことになる。また、「認知症サポーター養成講座」が広まるだけでは大きな成果に繋がらない。精華フレンドシップネットワークのような団体が幾つもできて活動が広まり、人と人の繋がりができてこそ成果は出てくるので、本校が地域の中心のひとつとして今後も意欲的に活動を続けたい。